

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2022年7月-9月 通巻第172号



園長のおすすめ 2021年8月24日号より

ホヤ・ムルチフロラ *Hoya multiflora* Blume

本種は中国南部から東南アジア、パプアニューギニアにかけて分布し、蠟細工のような星形の花がエキゾチックな雰囲気漂わせる植物です。ホヤ属は、アジア、オセアニアの熱帯または亜熱帯地域に約500種類あり、ガガイモ科の代表的な園芸植物でしたが、新しい分類体系ではキョウチクトウ科に含まれています。日本にも自生するサクララン (*Hoya carnosa*) が観葉植物として人気があります。

(園内位置：大温室ジャングルコーナー) [写真・文 世羅 徹哉]

園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>

ヌスビトハギ (盗人萩) のなかま

残暑厳しい中、植物公園の草地で小さなピンクの花を初めて見つけた時は、可愛らしいので喜んだのですが、その果実がやたらと衣類に引っ付きやっかいであることを知っては、目にするたびに引き抜くようになりました。

この植物は、北アメリカ東南部原産のマメ科の多年草で、アレチヌスビトハギといい、日本では1940年に大阪府で見つかり、和名がつけられました。

日本に自生するヌスビトハギは果実が衣類につきはするのですが、アレチヌスビトハギと比べると一株当たりに実る果実の数が少ないことや果実に生えている鉤状の毛がアレチヌスビトハギほど強力でないことなどから、やっかいなひっつきむしとしての印象は少なめです。私は園内で見つけたアレチヌスビトハギは可能な限り抜く、ヌスビトハギは邪魔でなければ抜かないという方針をとるようになりました。

そうして何年か過ごすうちに、両者の生育場所に違いがあるのではないかと思うようになりました。アレチヌスビトハギは植え込みを含む造成した土地でも広く生えていますが、ヌスビトハギは、どうやらもともと里山林として扱われていた土地の周辺にだけ分布しているようなのです。当時、この2つの種は同じ属 (*Desmodium*属) の植物として扱われていたので、同じ仲間でも性質が違って面白いな、というのが私の感想でした。

今回この記事を書くにあたってヌスビトハギのことをもう一度勉強し直してみました。そしてこの仲間のDNAを大橋広好博士と梶田忠博士が研究し、2000年には日本在来のヌスビトハギは、アレチヌスビトハギと別の属に分けられたことを知りました。学名は *Hylodesum* 属、意味は「森にすむヌスビトハギ類」だそうです。言えて妙、私の観察もまんざらのを外してはいなかったようです。



写真1 ヌスビトハギ (A) とアレチヌスビトハギ (B) の花



写真2 ヌスビトハギ (C) とアレチヌスビトハギ (D) の果実

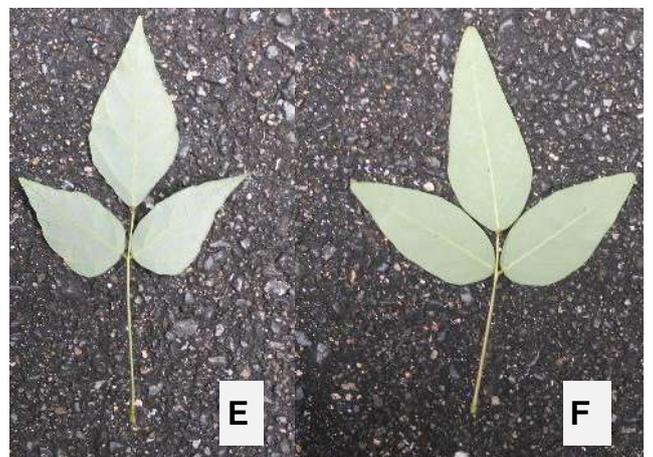


写真3 ヌスビトハギ (E) とアレチヌスビトハギ (F) の葉

2022年7月～9月 展示会・イベント案内

7/3 (日),
9/24 (土)

季節の園芸講座 (第1回・第2回)

13:30～先着100名 展示資料館2階講堂にて

秋咲きの草花の種まきから植え付け、水やりや施肥といった基本の栽培管理などについて、NHK「趣味の園芸」講師の職員が解説します。

7/16 (土)
～ 8/31 (水)

サマーフェア (水遊び広場)

天然芝の上で水遊びを楽しむことができます。
(期間中の開園日は毎日開催。各回10分、雨天中止)
時間：10:30、11:00、11:30、13:30、14:00、14:30

9/10,17,18
23,24

夜間開園

(サガリバナと夜の植物の競演)

9月中旬の週末・祝日の5日間限定で夜9時まで開園時間を延長します。サガリバナ等の夜咲く花・夜香る花の競演をお楽しみいただけます。

展示会のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示会・イベントを中止・延期する可能性があります。

広島市植物公園写生大会作品展		6/18～7/18	展示資料館
ビザールプランツ(珍奇植物)展		6/22～7/10	展示温室
世界の食虫植物展	協力：広島食虫植物同好会	7/16～8/14	展示温室
変化朝顔展	協力：広島あさがお研究会	8/20～8/28	展示温室
私の好きな花たちの写真展	共催：新田写真教室	8/20～9/19	展示資料館
薬用植物展		9/3～9/25	展示温室
秋の鳴く虫 in 植物公園	共催：広島市森林公園こんちゅう館	9/3～9/4	展示資料館 ロビー
植物友の会植物同好会ロビー展示	協力：植物友の会植物同好会	9/6～9/11	展示資料館 ロビー
特別企画展 コケの不思議展		9/23～12/25	展示資料館



変化朝顔展 (渦小人朝顔)



薬用植物展

Event Information 2022 7-9

植物公園で開催されるイベントを紹介します

7月

ビザールプランツ講習会（先着100名）
7月3日（日）午前11時～正午

季節の園芸講座（第1回）（先着100名）
7月3日（日）午後1時半～3時

ビザールプランツ実演会（先着100名）
7月10日（日）午後2時～3時半

うらら池よもやま話（先着100名）
7月16日（土）午前11時～正午

みどりとむし講座（先着100名）
「カブトムシとクワガタムシ」
7月31日（日）午前11時～正午

8月

食虫植物実演会（先着100名）
8月7日（日）午後1時半～2時半

変化朝顔展解説（先着100名）
8月21日（日）午前10時～11時

9月

薬用植物展解説（先着100名）
9月11日（日）午後1時半～2時

植物写真撮影講習会（先着30名）
9月18日（日）午後1時～3時

季節の園芸講座（第2回）（先着100名）
9月24日（土）午後1時半～3時

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、イベントを中止・変更する可能性があります。来園前に最新の状況を植物公園ホームページや電話でご確認ください。

- *毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています
- *毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時～は、園内で職員による植物うんちくガイドを実施しています

◇募集◇ ※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号（・希望日）を記入してお申込みください。植物公園のホームページ（Web申込のQRコード）からもお申込みいただけます

催し名・日程	内容等	定員	締切	Web申込
冬虫夏草観察会 7月10日（日）午前10時～正午 〔正午～午後1時（希望者のみ標本作り）〕	園内等で昆虫等に寄生した冬虫夏草の紹介や観察と標本作りを行います。 *申込時に標本作りの希望有無を記入 材料費：500円（観察後、標本作りを行う場合）	50名 （抽選）	6月29日 【必着】	
親子植物体験教室 [昼休憩あり] 7月30日（土）午前10時半 ～午後2時	園内の面白い植物さがしや花育体験（フラワーアレンジメント）を行います。 参加費：1,000円 対象：小学校1～3年生とその保護者	20名 （抽選）	7月11日 【必着】	
オオオニバス試乗体験会 8月9日（火）、11日（木・祝）、 13日（土）、14日（日） 午前9時半～正午、午後1時～3時半	直径1m以上になるオオオニバスの葉に乗る体験会。 対象：体重30kgまでの子ども 備考：希望日を第2希望まで記入	各日 200名 （抽選）	7月19日 【必着】	
きのご観察会 10月1日（土）午前10時半～正午、 午後1時半～3時	園内のきのごの観察を行います。	各回 10名 （抽選）	9月12日 【必着】	
先生と子供のための森の幼稚園（雨天決行） 10月2日（日）①午前10時～11時半 ②午後1時半～3時	カエデの葉の観察やどんぐり拾い。 参加費：1人当たり100円 対象：年中・年長の子どもと保護者 幼稚園等の先生	各回 16名 （抽選）	9月13日 【必着】	

植物公園の夏を彩る花 Summer flowers in Botanical Garden



ヒマワリの丘（森のレストラン前）



大賀ハス（花の進化園）



ヤチシャジン（里山の野草園）

植物公園の夏を彩る花を3つ紹介します。森のレストラン前では、約1,400株のヒマワリが7月中旬から咲き始めます。花の進化園の大賀ハスは約2,000年前の種子から発芽した古代ハスとして有名です。里山の野草園のヤチシャジンは絶滅が心配される湿地の植物で、7月中旬が見ごろです。

食虫植物展 Carnivorous plants exhibition



展示会場の様子（令和3年度）



ウツボカズラ（ウツボカズラ科）



サラセニア（サラセニア科）



ハエトリソウ（モウセンゴケ科）



モウセンゴケ（モウセンゴケ科）



ムシトリスミレ（タヌキモ科）

食虫植物展は夏休みの恒例展示として全世代から人気があります。虫を捕らえて食べる植物の不思議な生態と奇抜な形をぜひ会場でご覧ください。また、熱帯スイレン温室周辺には、食虫植物の巨大模型があり、まるで“虫に食べられたような姿”で写真撮影ができます。

7月～9月に見ごろを迎える植物



シオン
(ログガーデン・園内各所)



ヤブカンゾウ
(園内各所)



タニワタリノキ
(花の進化園)



パイナップルリリー
(花の進化園)



キレンゲショウマ
(花の進化園・里山の野草園)



オオバナサルスベリ
(大温室)



フウリンブッソウゲ
(大温室)



サギソウ
(フクシア温室・里山の野草園)



アデニウム 砂漠のバラ
(サボテン温室)



マツムラソウ
(ロックガーデン)



シラヤマギク
(ロックガーデン)



カセンソウ
(里山の野草園)

サギソウは広島市植物公園のシンボルマークに選ばれた花です。陽当たりの良い湿地に生育する野生ランで、繊細なつくり、清楚な姿はいかにも日本の蘭にふさわしく、夏に花が咲く姿はさすがに感じられます。かつては県内に広く自生していましたが、湿地の減少や園芸目的の乱獲などで数が激減し、今日では絶滅が心配される植物の一つになってしまいました。 [写真・文：久保 晴盛]



Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. 自由研究で育てているハエトリソウの元気がないのですが、どうしてでしょうか。

A. ハエトリソウは、その特異な生態からよく自由研究のために栽培されます。しかし、うまく育てられずに枯らしてしまうことも多いようです。元気がない原因には、①不適切な水やり、②置き場所の問題、③触り過ぎ（虫のやり過ぎ）が考えられます。

まず、水やりです。ハエトリソウは、湿地に自生し、水がなくなることは致命的です。水を張った器に鉢ごと浸ける腰水栽培が適しています。受け皿に、鉢が約1cm浸かるほどの水を入れて栽培します。夏は水が温まり、腐りやすいため、白く、大きめの受皿を用意し、毎日水を替えましょう。

次に、置き場所ですが、ハエトリソウはよく日が当たる場所で育てると調子が良くなります。しかし、真夏の炎天下や暗い場所からいきなり日なたに移動すると、葉焼けを起こすとともに、高温で根が煮えてしまいます。夏は午前中だけ日が当たる、風通しの良い場所に置きましょう。

最後に、面白いからといって触りすぎは禁物です。ハエトリソウが葉を動かし、虫を消化するにはかなりのエネルギーを使います。このエネルギーはハエトリソウが光合成によって作り出しています。虫からは栄養塩（チッソやリン等）を得ており、新しい体の材料として補助的に使います。そのため、葉を動かし過ぎると成長するためのエネルギーが不足し、枯れたり弱ったりする原因になります。

[文 藤井 智展]

Q. 庭のヒラドツツジがぼさぼさになってしまいました。すっきりと刈り揃えてよいでしょうか？

A. 今（夏）の時期にヒラドツツジの刈り込みを行うと、翌春に花が咲かなくなるのでお勧めしません。

ヒラドツツジは、4月下旬から5月上旬に開花し、その後7月上旬までには翌年咲く花（花芽）を準備します。花芽は開花後に伸びた枝の先にできるので、夏に枝先を揃えるために刈り込むと、せっかく準備した花が刈り飛ばされて無くなってしまいます。そのため、ヒラドツツジの刈り込みは、開花後5月末頃までには終わらせませす。

来年の花を咲かせるためには、開花まであえて刈り揃えないのが望ましいです。どうしても乱れた樹形が気になるようでしたら、全体を刈り揃えるのではなく、他と比べて飛び出したところだけを切るにより、バランスをとる程度にするのが良いでしょう。そうすると、刈らなかつた枝が開花し、本来のボリュームには劣りますが、いくらか花を楽しめるかもしれません。

[文 濱谷 修一]

Q 鉢植えのアジサイの花が終わりました。翌年もきれいに花を咲かせるにはどうしたらよいですか？

A. 開花していたアジサイの花が終わりを迎えるのは、梅雨が終わる頃と重なることが多いようです。そのままにしておいても、翌年花が咲くこともありますが、鉢植えの場合は特に、枯れたままの花を放置すると、株自体が弱ることで、翌年花が咲かなくなることもあります。仮に花が咲いたとしても、アジサイの花芽は枝の先の方の節に形成されるという性質があるため、枝の先端ばかりに花が咲くことになってしまいます。

株全体が大きくても構わないならば、花がらを摘んでおくだけでもいいのですが、花付きや樹形のことを考えて見栄えの良いものにしたければ、適期に剪定を行う必要があります。

そこで、花が咲き終わったら、できるだけ早めに花後の剪定を行うようにしましょう。花が終わった後、枝先から2、3節の位置で切ると、翌年もほぼ同じ株丈で楽しめます。アジサイの花芽は9月から10月にかけて完成します。花芽を形成した後に剪定すると、誤って花芽を取り除いてしまい翌年に花が咲かなくなる恐れがあります。四季咲き性品種は、花芽の形成時期を気にすることなく剪定できますし、アナベルのように春になって新しく伸びた枝に花が咲く品種は、春までに剪定を行えばよいでしょう。

剪定後は、根詰まり防止のため、一回り大きな鉢に植え替えを行ってもよいでしょう。またお礼肥として、固形の油かすや緩効性肥料（または液体肥料を2週間に1回程度、9月まで施してもよい）を与えましょう。

[文 小林 孝次]



ビザールプランツ（珍奇植物）展

いま、園芸界で熱く、ニュートレンドになっている植物“ビザールプランツ”がここ広島市植物公園に集結しています。

ビザールプランツとはビザール（=珍奇、奇抜）+プランツ（=植物）の意味で、日本語では「珍奇植物」と呼んでいます。植物分類群の名ではありません。具体的には、根や茎が肥大して塊状になった塊根・塊茎植物（コーデックス）をはじめ、その他の多肉植物やチランジアのようなエアプランツ、最近ではビカクシダなどの熱帯雨林植物も含まれるようになりました。

2022年7月10日（日）まで展示温室にて開催している「ビザールプランツ（珍奇植物）展」では、世界の奇想天外で個性的な植物を大公開！ 西日本では初めての展示会です。「これが生きた植物？」と見まがうような光景に圧倒されることでしょう。

アフリカ南部やマダガスカルの乾燥した環境に自生するコーデックスは、年季の入った盆栽のような堂々たる風格です。また、鹿のはく製を飾っているのかと思いきや、実は生きた植物で、その名も「ビカクシダ（麋角羊歯）」。これは熱帯雨林で土壌に根を下ろさず、樹や岩に着生して生育するシダ植物というから驚きです。そのほか、肥大した茎の中は空洞でアリを住ませ、アリの排泄物から栄養分を得るアリ植物や、痩せ土で生活するために葉を変形させて昆虫などの小動物を捕食し、栄養分を補う食虫植物など、生存戦略のために独特な進化を遂げた植物の奇妙奇天烈な姿は見ていて飽きることがありません。マニアならずともその魅力にハマってしまったという方も多いのではないのでしょうか。いずれも大自然が作り出した造形美で、美術館でアート作品を見ているようです。

本展示会には、これら珍奇植物を扱う「SPECIES NURSERY（スピーシーズナサリー）」主宰の藤川史雄氏と、世界中のビカクシダなどの着生植物を栽培・販売する「vandaka plants（バンダカプランツ）」主宰の高橋宏治氏の協力を得ています。会期中には、当園職員による講習会（7月3日）と高橋氏による実演会（7月10日）があります。室内空間でダイナミックな葉がひととき存在感を放つビカクシダの板付け方法を学ぶことができますよ。講習会も実演会も展示会のスピノフの内容で、わたしたちと珍奇植物がともに暮らしていくためのヒントがたくさん詰まっています。

この夏は、摩訶不思議な風貌をした植物の世界に浸ってみませんか。



写真 ビカクシダ・リドレイ

[文 島田有紀子、写真 堀川大輔]

 広島市植物公園

広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで）
- 休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

